　　　　令和４年１０月１４日

令和４年度関東東海北陸農業試験研究推進会議

水田作畑作・作業技術部会　事務連絡

部会長　　中日本農業研究センター　　　　 転換畑研究領域長　吉永悟志

副部会長　農業機械研究部門　　　　　　知能化農機研究領域長　梅田直円

副部会長　作物研究部門　　　　　スマート育種基盤研究領域長　石井卓朗

副部会長　植物防疫研究部門　　　　　　　雑草防除研究領域長　小荒井晃

副部会長　中日本農業研究センター　　　　水田利用研究領域長　白土宏之

標記の推進会議は、別途公文でお知らせしておりますが、研究会では「水田輪作における子実トウモロコシ導入の課題」の検討と情勢報告、部会では、「推進すべき技術的課題」の検討と「研究成果の相互の紹介」を中心に実施いたします。

つきましては、関係者のご出席と資料作成をよろしくお願い申し上げます。

記

**１．開催日時：**

研究会　 　　令和４年１１月２１日（月）１３：１０～１７：００

部　会　　 　令和４年１１月２２日（火）　９：００～１２：００

**２．開催方法**　Web会議＋農研機構（つくば）会場設定（ハイブリッド開催）

**３．議　　事**

**＜研究会＞　１１月２１日　１３：１０～１７：００**

テーマ：水田輪作における子実トウモロコシ導入の課題

食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」が令和3年5月に策定され、作物生産研究において、このような動きと連携して技術開発を加速する必要がある。また、穀物価格の高騰と為替の円安進行の中で食料自給率の向上がより喫緊の課題となっている。こうしたなかで、飼料自給率の向上や持続的生産体系の構築への貢献に関して、子実トウモロコシの導入機運が高まっている。そこで、当該地域の水田輪作における子実トウモロコシ生産安定化のための研究推進に向け、研究情報の共有と作付け導入の課題の整理や討議を行う。

１）話題提供　13：20～

＜水田輪作における子実トウモロコシ導入の課題＞

①水田作での安定生産の課題（仮）

農研機構　東北農業研究センター　緩傾斜畑作研究領域　森田 聡一郎 氏

②収穫技術の課題

　　　　農研機構　畜産研究部門　畜産飼料作研究領域　　 　　 阿部 佳之 氏

③アワノメイガ防除の現状と課題

　　　農研機構　中日本農業研究センター　転換畑研究領域　　石島　力 氏

④水田輪作でのプラウ耕体系による高速作業体系

　　　　農研機構　東北農業研究センター　水田輪作研究領域　　篠遠 善哉 氏

⑤水田作経営への子実トウモロコシ導入の現状と課題

　　　　農研機構　本部　非常勤顧問　　　　　　　　　　　　　梅本　雅 氏

２）都県からの情勢報告＋総合討論

＊都県からの提出資料を整理して、話題提供内容を踏まえた討議を行います。

---------------------------------------------------------------------------

**＜部会＞　１１月２２日**　**９：００～１２：００**

１）雑草被害と対策に関する情報交換

＊関東東海北陸地域における問題雑草の被害と対策に関して議論を行います。また、各都県にご協力いただいている「全国の水田における雑草イネの発生状況調査」の結果から関東東海北陸地域の発生状況をご報告します。

２）品種育成に関する情報交換

＊水稲、麦類、大豆の新品種の紹介や育成に関する動向について情報提供します。

３）地域研究・普及連絡会議で取り上げられた国が推進すべき技術的課題に関する検討

＊「技術的課題」について分野別に課題を整理して情報交換や連携に関する検討を行います。

４）都県・独法の研究成果の相互の紹介

イチオシ成果および技術カタログ（旧：最新農業技術・品種 20XX）推薦候補の検討

＊昨年度の研究成果の情報共有を行うとともに、部会からのイチオシ成果を選定します。

５）分野における研究情勢に関する意見交換

＊各都県の研究情勢の報告をもとに、情報交換と討議を行います。部会の運営に関する要望についても討議します。

６）その他

**４．資料の作成について**

　資料作成は任意ですが、会の趣旨をご理解いただきご対応のほどお願い申し上げます。

　様式は別紙の通り（適宜アレンジしていただいて結構です）。

**＜研究会資料＞**

１）水田輪作への子実トウモロコシ導入に関わる研究情勢報告

　関連する研究の取組状況（予定を含む）を整理して討議を行い、情報共有や連携を進めたいと考えております。

記載内容------

①実施中の課題（課題名と内容の概略）

②今後の取り組み予定（予定の概略、連携の要望）を簡略に記載してください。

③現地での取り組み事例

（導入の輪作体系、利用機械（耕起、耕うん、播種、収穫、乾燥）、現場での課題）

様式：別紙1（適宜変更可）。A4縦置き　余白を縦横それぞれ25mm以上取ってください。

**＜部会資料＞**

**１）都県・国立研究開発法人の研究成果**

各都県で得られた令和３年度研究成果の相互紹介を実施します。令和３年度以前の成果であっても、イチオシ成果や技術カタログとして普及すべき成果候補は対象とします。積極的にご紹介をお願いします。

各都県で利用されている様式のままで結構です。A4縦置き　余白を縦横それぞれ25mm以上取ってください。

**２）分野における研究情勢に関する意見交換**

当部会に関連する研究情勢の概要、今後、生産現場で問題となりそうな事項についてご報告ください。

　様式：別紙２（適宜変更可）。A4縦置き　余白を縦横それぞれ25mm以上取ってください。

**３）部会に対する要望事項**

次年度の本部会研究会で取り上げるべきテーマや当部会への要望、他部会への要望がある場合に作成してください。

　様式：別紙２（適宜変更可）。A4縦置き　余白を縦横それぞれ25mm以上取ってください。

**研究会および部会用資料はメール添付ファイルで、事務局宛**にお送りください。

締め切りを**１１月１４日（月）17時**とします。

**５．会議出席申し込み**

出席申し込み（エクセルファイル）に記載し、メール添付ファイルで、事務局宛にお送りください。締め切りを**１１月７日（月）17時**とします。参加申込書に記載頂いたアドレスにTeamsのURL等をご連絡します。

　　＊研究会の話題提供への出席について

都県、農林水産省、農研機構以外の方について、普及促進や連携のために重要と認められる場合、話題提供の視聴を認可したいと思います（想定の参加者例：市町村やJA職員等）。その場合、会議メンバーと同一回線での視聴をお願いします。ご希望がありましたら、申込用紙にご記入ください。

**６．事務局（部会担当）：**

農研機構 中日本農業研究センター転換畑研究領域　栽培改善グループ　松崎守夫

Tel：029-838-8425、E-mail：[kanto-suiden@naro.affrc.go.jp（matsu@affrc.go.jp](mailto:kanto-suiden@naro.affrc.go.jp（matsu@affrc.go.jp)）

＊関連情報は下記の中日本農研WEB サイト内の推進会議ページに掲載します。

<https://www.naro.go.jp/laboratory/carc/contents/suishin_kaigi/index.html>

**７．スケジュールのフロー**

**会議参加申し込み（別紙出席申込書、ML登録用）：11月7日（月）17:00まで**

**資料提出：11月14日（月）17:00まで**

１）研究会資料（情勢報告用：別紙１）

２）部会資料

①各機関の研究成果情報（各自様式）

②都県における研究情勢（別紙２）

③部会に対する要望事項（別紙２）

＊事務局宛に提出

（kanto-suiden@naro.affrc.go.jp）

**資料配布+URL通知：11月17日（木）12:00まで**　（変更の可能性あり）

事務局より参加者へ送付

**研究会＋部会：11月21日（月）～22日（火）**

当日21日は、早めに接続を可能として、トラブルを回避したいと思います。

**別紙１**

**＜研究会資料＞　水田輪作における子実トウモロコシ導入の課題**

**２）都県からの情勢報告**

**○○県**

様式：別紙1（適宜変更可）。A4縦置き　余白を縦横それぞれ25mm以上取ってください。

赤字は作成時の留意事項です。提出時に削除してください。

子実トウモロコシ栽培に関連する研究等の取り組みについて、ご記載ください。

①実施中の課題（課題名と内容の概略）

②今後の取り組み予定（予定の概略、連携の要望）を簡略に記載してください。

　③現地での取り組み事例（情報がありましたら、可能な範囲でご記入ください）

a）導入の輪作体系（前作・後作）

b）耕種概要　播種時期、品種、肥培管理（堆肥の活用等）

c）利用機械（耕起、耕うん、播種、収穫・・）

d）現場での課題　湿害、雑草・・・

**別紙２**

**＜部会資料＞**

**○○県**

様式：別紙２（適宜変更可）。A4縦置き　余白を縦横それぞれ25mm以上取ってください。

赤字は作成時の留意事項です。提出時に削除してください。

**１）分野における研究情勢**

当部会に関連する研究情勢の概要、今後、生産現場で問題となりそうな事項についてご報告ください。

**２）部会に対する要望事項**

次年度の本部会研究会で取り上げるべきテーマや当部会への要望、他部会への要望がある場合に作成してください。